

自然対話における発話主体間の対話調整： 共発話者への働きかけを示す談話マーカ－の考察

安齋 有紀
(島根大学)

本発表では、発話者が自らの先行発話を別の語あるいは表現で言い換え、それを共発話者に提案する際に使用する *si vous voulez, disons* の対話調整機能について説明する。

発話者は、発話の指示対象 X についてある語や表現によってそれを共発話者に伝える時、自分が使った語や表現で示された指示対象 X の概念を共発話者が共有できるかどうか見直し、別の語や表現で言い換える方が適当であると判断する場合は、以下の例のように談話マーカ－によって新たな表現を導入する。

(1) - c'est quoi la convivialité comment ça s'marque

- ben c'est les différences de culture... apprendre *si vous voulez* euh la culture des autres

(2) - un peu plus la jeunesse oui euh oh une adolescence un peu tardive *disons* quand on avait vingt ans

このような場面で、発話者は共発話者の視点から共発話者の認知領域に合わせた言い換えを試みるが、同時にこの言い換えによって提案された語や表現には、発話者の視点で新たに定義した語の使い方が含まれ、それを共発話者に提案している。つまり、共発話者と共有可能な認知領域を広げることを目指す一方で、指示対象には複数の解釈があることを共発話者に示していると考えられる。

このように、指示対象について複数の解釈が存在し、発話内容についての主体間の理解の不一致(ずれ)が生じる可能性がある場面で、談話マーカ－*si vous voulez, disons* はどのような対話調整に関わっているのか。それぞれのマーカ－を使用する時、発話者は発話の指示対象に対してどのような視点で言い換えを行い、共発話者に対してどのような立場から、何を働きかけているのか。自然対話における *si vous voulez, disons* の表出例を使って、マーカ－の周辺に観察される言語要素、対話においてマーカ－が表出する位置、音声特徴について考察し、対話における発話の修正—新たな提案を導入するプロセスと、それぞれのマーカ－が示す機能について整理する。

[付記]この研究は、現在進行中の日本フランス語学会研究促進プログラム「パロールの言語学」の一環で行なっているものである。